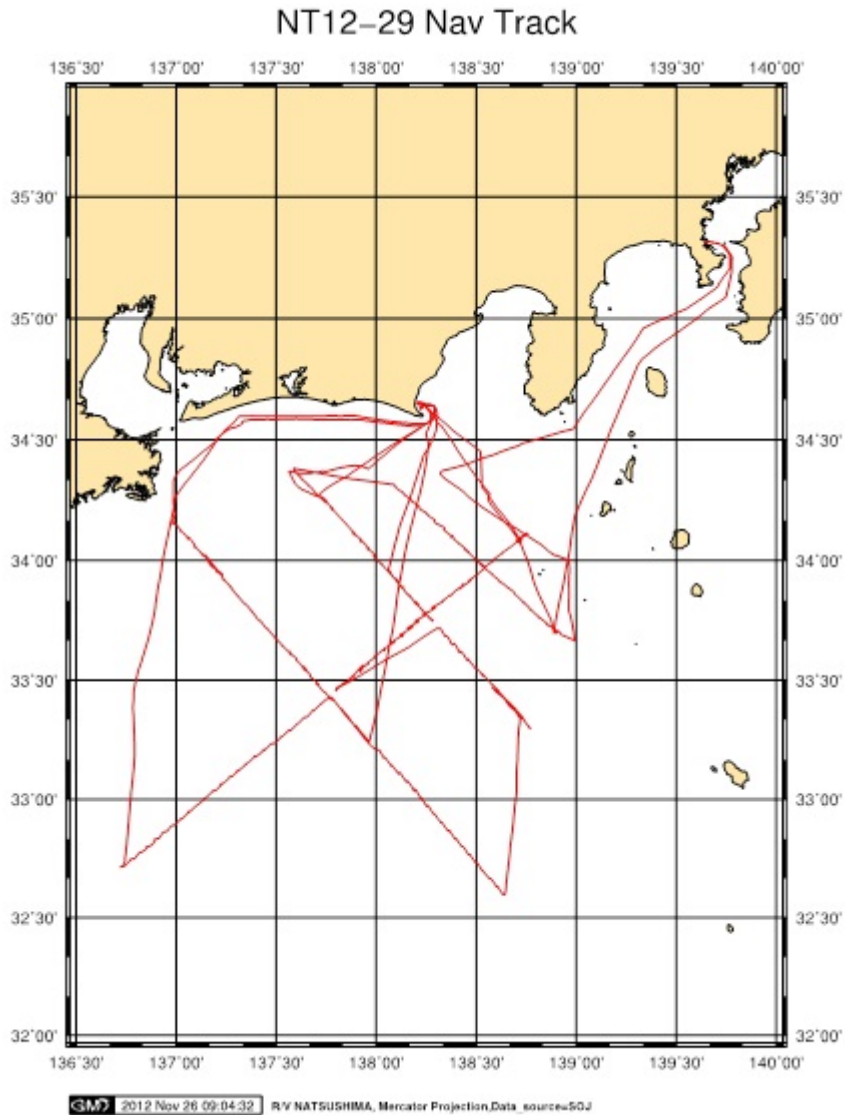


クルーズサマリー

1. 航海情報

- (1) 航海番号、船舶名：NT12-29, 「なつしま」
- (2) 航海名称：平成 24 年度 所内利用 受託研究「紀伊半島沖～東海沖における地震探査および自然地震観測調査研究」
- (3) 研究課題名：受託研究「東海・東南海・南海地震の連動性評価のための調査観測・研究」
- (4) 航海期間、寄港地：
2012/11/09-11/26, JAMSTEC (横須賀) - JAMSTEC (横須賀)
- (5) 調査海域名：紀伊半島沖～東海沖
- (6) 調査マップ：



2. 研究参加者

- (1) 首席研究者 [所属機関名]: 海宝由佳 [JAMSTEC]
- (2) 課題代表研究者 [所属機関]: 金田 義行 [JAMSTEC]
- (3) 研究参加者リスト:
 - 小平 秀一 [JAMSTEC]
 - 高橋 成実 [JAMSTEC]
 - 尾鼻 浩一郎 [JAMSTEC]
 - 仲西 理子 [JAMSTEC]
 - 高橋 努 [JAMSTEC]
 - 山本 揚二郎 [JAMSTEC]
 - 海宝 由佳 [JAMSTEC]
 - 三浦 誠一 [JAMSTEC]
 - 藤江 剛 [JAMSTEC]
 - 佐藤 壮 [JAMSTEC]
 - 山下 幹也 [JAMSTEC]
 - 野 徹雄 [JAMSTEC]
 - 柏瀬 憲彦 [JAMSTEC]

3. 実施内容:

(1) 目的:

本航海は、受託研究「東海・東南海・南海地震の連動性評価のための調査観測・研究」の一部であり、紀伊半島沖付近における地殻構造の解明と地震観測の実施が目的である。

南海トラフ沈み込み帯では、過去の地震発生様式から、地震発生帯がいくつかのセグメントに分かれており時折それらが連動することが知られている。紀伊半島沖から東海沖にかけての海域は東南海と南海のセグメントの一部である。

これらのセグメント化と連動をコントロールする構造要因を知るためには、詳細な構造の変化と沈み込み帯の地震活動を知ることが必要である。この航海の目的は、紀伊半島沖から東海沖にかけての構造と地震活動を明らかにすることである。

(2) 調査項目:

1) 海底地震計(OBS)回収

145 台の OBS (KR12-09 で 150 台設置し、2 台を同航海で回収、1 台はその後浮上、回収) を回収した。このほか、2 台が未回収である。

(3) 調査日程:

日付		記事
2012/11/09	金	JAMSTEC 出港、調査海域へ回航の上、洋上にて荒天待機
2012/11/10	土	OBS 回収、呼び出し
2012/11/11	日	OBS 回収、呼び出し、御前崎沖向け荒天避航
2012/11/12	月	荒天待機
2012/11/13	火	OBS 回収
2012/11/14	水	荒天待機
2012/11/15	木	荒天待機、調査海域向け回航
2012/11/16	金	OBS 回収
2012/11/17	土	OBS 回収、荒天待機
2012/11/18	日	調査海域向け回航
2012/11/19	月	OBS 回収
2012/11/20	火	OBS 回収
2012/11/21	水	荒天待機、OBS 回収
2012/11/22	木	OBS 回収

